

アラウンド GOGO 55



50歳を超えた「人見知り」

原田文孝

よく「怖そうな人」だと言われまふ。見た目も、背が高くて無表情であまりしゃべらないので、とてもとつつきにくいと思います。

しかし内面は逆で、まわりの人に怖さを感じています。早い話が「人見知り」なのです。子どもの頃からの「人見知り」が未だに続いているのです。私は、岡山の山の中で生まれました。幼稚園にも保育園にも行っていません。小学校の同級生は3人です。女の子2人と私です。こんな人とかかわることのない生活の

中で「人見知り」が強化されたのだと思います。家の近くに店はなく、買い物を経験がなく、未だに店に入るのも買い物をするのも苦手です。

*

8か月児の「人見知り」は怖いけど見たいという矛盾した気持ちがあると言われています。50歳を超えた「人見知り」も「怖いけどかわりたい」という気持ちはあります。しかし、8か月児のパワーにくらべるとパワーはとても弱く、「まあいいか」とすぐにあきらめてしまいます。そ

れでもと、話しかける時はドキドキです。50歳を超えてもドキドキのなまけな自分も助けてくれるのは、茨木のり子さんの詩です。

「大人になつてもどきまぎしたっていいんだな　ぎこちない挨拶　醜く赤くなる…あらゆる仕事　すべてのいい仕事の核には　震える弱いアンテナが隠されている　きつと…」（「汲む」より）

*

また、組合の大会ですごい発言をされる大先輩が、ある

時「胃が痛い思いをしながら発言している」と言われて、同じなんだなと思つて安心したことがあります。

どんなに歳をとつても、内面には不安や怖さをかかえているんだなあとと思うと、少し気持ちが楽になります。

たぶん、これからも「人見知り」が続くと思つたので、そこをよるしくお願ひします。

（兵庫支部副支部長、『みんなのねがい』編集委員）

*「アラウンド55（ゴーゴー）」は、50代をむかえた会員による、介護や健康、人生設計などをテーマにしたエッセイコーナーです。